

中国 判決によりゼスプリが知的財産保護を前進

[FreshPlaza 2024年8月19日](#)

上海の裁判所が知的財産権侵害で3人に判決

世界最大のキウイフルーツ販売会社であるゼスプリ・インターナショナルは最近、中国における知的財産権の保護において進展を遂げた。上海の裁判所は、ゼスプリの知的財産権を侵害したとして、3人に3年9カ月の刑期を言い渡した。さらに、各被告には55万人民元(7万6,830米ドル)の罰金が科された。

有罪判決を受けた当事者達は、四川省浦江県で栽培されたキウイフルーツの購入に関与し、さらにゼスプリの登録商標のラベルとパッケージを偽造した。偽造品はその後オンラインストアを通じて販売された。販売された果実の数は65万~85万個で、売上は約320万人民元(44万7千米ドル)であった。

ゼスプリチャイナ社のマイケル・ジャン社長は、裁判所の判決は、偽造によるゼスプリの商標と知的財産の不正使用に対する明確な姿勢を示しているとして、中国の消費者の利益を保護する上での重要性を強調した。同社の広報担当副社長であるアイバン・キンセラ氏は、上海の裁判所の判決に満足の意を表し、同様の侵害に対する抑止力となる可能性を指摘した。

偽造行為に対応して、マウントマウンガヌイ地区(ニュージーランドのタウランガ市内)に拠点を置くゼスプリは、偽造ラベルの製造と配布に責任を有する事業者に対する法的措置を開始した。また、同社は中国でのキウイフルーツ品種の無許可栽培と販売についても対処しており、中国国内にはゼスプリのキウイフルーツ品種の栽培を正式に許可された生産者はいないと指摘した。それにもかかわらず、ゼスプリ・サンゴールドキウイフルーツの中国での無許可栽培面積は約8,387ヘクタールに及ぶと推定されており、その生産量はゼスプリの中国への総輸出量に匹敵する。

出典: yicaglobal.com

世界の主要熱帯果実の輸出は2023年に約8%増加

[FreshPlaza 2024年8月20日](#)

国連食糧農業機関(FAO)は新しいレポート「主要熱帯果実市場レビュー」を発行した。これは、ローマに拠点を置くFAOの「責任あるグローバルバリューチェーン、市場及び貿易部門チーム」によって作成された。

主要熱帯果実の世界の輸出額は、2023年に約8%増加し、物価調整後の2014~2016年ドルベースでほぼ108億米ドルに達し、これまでの最高水準を記録した。貿易の主な推進力は、アボカドの世界的な供給量の急増をはじめとして、主要な熱帯果実の大部分について主な生産地域で出荷量が増加したことと、主要な輸入市場の需要が堅調なことであった。

品目別の動向:

- 世界のマンゴー、マンゴスチン、グアバの輸出量は5.2%増加し、240万トンとなった。
- 世界のパイナップルの輸出量は3.9%増加し、320万トンとなった。
- 世界のアボカドの輸出量は10.6%増加し、280万トンとなった。
- 世界のパパイヤの輸出量は2.6パーセント減少し、37万トンとなった。

世界レベルの供給状況が全体的に好調であるにもかかわらず、悪天候や植物病害虫の蔓延をめぐる懸念事項が、パパイヤ栽培をはじめとして一部の地域や一部のケースで生産者に引き続き悪影響を及ぼした。世界的な輸入需要が相対的に強いため、指標となる世界平均の輸出単価は全体的に上昇する傾向を示したが、アボカドは例外で2023年の供給量の急速な増加により単価が低下した。

レポート全文を読むには、[ここをクリック](#)

出典: fao.org